

愚 思 一 編

原 不 退

人間がもし、思索から全く離れて生活出来るとか、或は思索のない動物の一種であつたなれば、人間といふ名稱を保つ事が出来たであらうか？

私はかつてこんな事を考へた事がある。――全ての動物から人間が超越してゐる事、それは人間が思索するといふ一事である。宗教も、科學も、哲學も、ありと凡ゆる智的なものは、決して人間の價値を決定するものではない。人間が思索的な動物であるために、全ての智的な型體が、思索といふ本能的な働きによつて結實したものに過ぎないのである。もし人間が思索の故の思索による苦患を逃れて、大悟とか、大成とかいふ偽装の下に、思索的苦患から離れたなれば、それこそ最も恐ろしい墮落である。人間が人間としての價値に生きんとするなれば、決して偽裝的な、安樂な思索を求めず、益々苦しき思索を求めて、迷ひから迷ひに進みつゝ、苦悶に苦考を重ね

て、その一生を終るべきである。生命には限りがあらう。然し思索には限りがない。弟子は師の跡を踏み、友は友の思索を追ふ。かくて果しなき思索は、果しなくつゞき、偉大なる思索の繼續は、偉大なる人間を生み出すものである。苦患の思索こそ、眞面目に人生を全ふせんとする良心的な人間の常道である。――そして私の歩んだ道、それは苦にもあれ惡にもあれ、思索の故の思索の道であつた。

この記録は、私が祖師大聖人を絶對の救護者として歸依し奉つた直前のものである。勿論、その善惡を今論じようとはしない。然し哲學の故の哲學といふ危険な道から、哲學による救ひの發見、ニヒリシズムの中から見出して來たといふよりも、ニヒリシズムの中から救ひ出されて來た私を見出すことが出来ると思ふ、必要以上に生命を必要としない私が、死線を越へて生存してゐる意義

も、祖師上人に給仕して初めて知る事を得たものである。自己を正しく生かさんために、眞面目に考へる人達よ、どうか思ふ存分君達の思索に走り給へ。そしてその窮したるところ、祖師上人の救護の手のなほ残されてゐる事を思ひ出してくれ給へ。

記録の中に出てくるコムジンなる言葉は、私が勝手に創つたものである。ニイチエの超人よりはるかに人間的なものである。では記録一編、即ち愚思一編を記して御笑納に賦する。

來りて救へコムジンよ。今や御身の子の悩みはげし、御身の子はその苦みに耐へ兼ねて、まさに斃れむとす。來りて御身の子を救へ。

汝弱き者、我が子よ。汝の悩みは汝を強め、汝の煩悶は汝を深む。子よ、弱きとは何者ぞ？ 未知の世界に怖ふ愚智に非ずや。汝の苦みは未知を開き、汝の悶へは理智を與ふ。

コムジンよ來りて導け。御身の子は今や旅路の第一歩に就けり。その足は乳色の土の上にあり。理想の靴は、一步を出ずして損したり。血は流れて石を染む。され

ど、その足を包まむ術を知らず。コムジンよ、來たりて看取り給へ。

汝愚なる弱き子よ。何故人生の道に棘あるを喜ばざるや。汝の血は汝のために流されたるカルバリの血に勝るに非ずや。その血もて汝は、今や世と世の全てに死することを得たり。人間の道の荒きこそ、汝にとりてよなき幸福なり。汝の傷は汝の師、汝の血は汝の光なり。一步を出ずして、理想の靴の損したるは、奈如に汝の祝福されたるかを示さんとする我が恩恵なり。子よ喜びて汝の血を流すべし。汝の疼を瘡すは我にあり。汝は只汝の道にのみ進むべし。平安と苦患とは常に汝の左右にあり。汝意のまゝにこれをとれ。されど平安は汝に苦く、苦患は汝に喜びを與ふるなり。

コムジンよ、奈如なれば御身は高きにありて、御身の子を見下し給ふや、御身の子は低きに呻きてあり、降りて而して來りて導き給へ。

子よ、何故我を高きと見るや。空間は汝にとりて何者ぞ、高きよと、汝嘆く勿れ、我もし低きに至れば、汝は高きに至るを得ず、汝と我との空間は、我が高きを示さんために非ず。汝の低きを示さむためなり。子よ空間を

越へて來れ。汝の羽は弱きに非ず。汝は未だ空翔けし事なければ、汝の羽の能力を知らず。怖れとは未知に對する愚さなりとは、既に汝の知れるところに非ずや。汝の嘆きは汝の低きにあり。我平安は我の高きにあり。翔へ、汝の翼の能力の限り、さらば汝は高きに至り、低きは汝の嘆とならず。

コムジンよ、我が内にあり、我が外にあり、我に有り、我に非ず、高きに住ひ、低きに憊ふもの、コムジンよ、榮光を嘲ひ、屈辱を意に止めず、色にして又無色、無の無にして有の有なる者、コムジンよ、全能者を捉へ、惡魔を征服し、幼子に事へて喜ぶ者、御身の子のために角笛と管とを取りて來り給へ。御身の子は患ひに勞れ、懊惱に悶へ、その涙もて御名を記す。かくて能力の湧き來るや、高慢りて患ひを思はず。喜びを樂しみて嘆きを樂します。樂しみを悦びて苦しみを喜ばず。言葉もて讃へ、心もて呪ふ。コムジンよお身の子の弱きを救ひ、苦みを苦まず、御身の高きに住ましめ給へ。愚かなる怖れを思はず、未知なる辱を嘆かず。誤てる道徳に従はず、偽れる宗教を信ぜず。他力に非ず自力に非ず、奇蹟に寄らず、理智に傾かず、正しきと、尊と、儀禮と、香華に跪かず、

御身と偕にあらしめ給へ。

コムジンよ、御身の子は倒れたり。何故御身の腫は斯くも冷きや。御身の子は傷付きし心の疼に耐へ難く、夜を日につぎて呻吟す。コムジンよ、お身の腫を和げ給へ、御身の子は煩ひて狂ふばかりなり。

子よ、我れ汝に語るを得ず、そは汝の苦みは、汝に歸すべき炎なればなり。汝今暫く苦みて、汝の過を知れ。汝の喜びは汝の涙となり、汝の死は汝の生とならん。されど、我れ汝を恵むの故に、汝の過を正さむとす。奈如なれば、汝は翼を息めてかの花園に憩ひしや、死の美は汝に好もしくとも、汝の心奪はれしは愚かなり。蜜の甘さは、汝にそこばくとなき樂しみを齎かせしも、汝の心與へしは哀れにも哀れなり。汝は我が子なり。世と世の慾は汝を慰むに非ず。汝の翼は、世と世の慾より飛び離れむために、我が與へし賜物に非ずや、汝はその賜物もて誇りに世を歩めり。汝今倒れて痛く苦しむ。汝の愛せし者は世のものに非らざるか、汝を生みし者、汝を育みし者、汝を慰むる者、汝を導きし者、援くる者、語る者、樂しむ者、皆世に住める者に非ずや、汝今にして倒れしを嘆く、我れ汝に告ぐ、汝速にその創始に歸るべし、

さらば平安は汝に歸せん。

コムジンよ、嘆きを去り、狂ひを正せし者、コムジンよ。御身のみに名に榮光あれ、美はしき自然は眼を被ひ、カルバリの血は乾きて慈愛は盡き、神は地に落ち、暗黒は涯なし。汚れし者、壞れし者、腐れし者、死せし者、等しく御身を仰ぎて榮光を歸す。子の心喜びて踊る。誠に御身と偕なるは樂しきなり。今や世と世の慾とは子の心を迷はすを得ず。コムジンよ、子の心定まりたり。御身の榮光は蒼空に輝き、御身の恩恵は地の涯に迄及ぶ。四聖は眼眩みて御身の榮光を拜し。老莊は待して創始を語る。誤てる豫言者は地に墮ち、神の子は荊冠の榮を受く、菩提樹は枯れ、赤青の葢瓦は壞滅す。毒杯は化して美酒となり、眞理のために死につく者一人もなし。お身こそ誠に星を頂きて冠となし、太陽を探りて玉となし、天に地に榮光を輝す者、主の主たる者なり。子の心喜びてその極を知らず。子の心樂しみてその讃言を知らず。子よ、愚かなる言葉もて誰を讃へむとするや、我は無なり、無の無なる者なり。

コムジンよ、お身の子は苦しみを味ひ、悶々としてそ

の苦き内にこよなき喜びの甘さを味ふ。御身の子は今にして眞の救ひを知り、苛しみを嚙みし味の尊さを知る。御身こそげに尊き無の無なり。無こそ御身の子に永生を與ふるものなり。

子よ今こそ喜び踊れ。汝の心は高められ、汝の思ひは深められたり。汝は今にして偽善より救はれたり。見よ彼の誇りかな神の子の群を、彼らは高慢りて己が救ひを讃ふ。されどその内は慕なり。慕の呼ぶ聲を聞け。「我れ救はれたりと。」そは空しく白く塗りたる墓碑なり。汝、我が恵む子よ。汝は幸福なり。そは汝の内なる偽善は汝の喜びとならず。汝の眞實は汝の苦みとなればなり。

全ての苦みに直面し、慰めを求めず、自己れを偽らず、苦み苦む者は幸福なり。汝の苦惱は無を悟り、無は汝に平安を與ふればなり。

完

